



徳島県 医療ソーシャルワーカー 協会ニュース

会長挨拶

徳島県医療ソーシャルワーカー協会
会長 郡 章人

2021年度、年度はじめと言う事で、ご挨拶させていただきます。

今期も微力ながら徳島県医療ソーシャルワーカー協会の会長をさせていただきます郡です。

徳島県内の医療ソーシャルワーカーの資質向上、ネットワークに資する会にしようとして立候補してくださった理事達と力を合わせて、実践者である会員の皆様のニーズに応えられるような会の運営、企画に尽力して参りたいと思います。皆様、是非、徳島県医療ソーシャルワーカー協会へのご協力、積極的なご参加をよろしくお願ひします。

昨年から続く新型コロナウイルスの脅威。皆さんも感染症対策をしながら、日々、ソーシャルワークを必要とする患者さんや家族と向き合い、最善を考え、さまざまな制限下の中でもソーシャルワーク業務に従事されているかと思ひます。会員の皆様、本当にご苦労さまです。

私自身も、昨年度意識したことは「コロナ禍でもソーシャルワーク実践」でした。コロナ禍以前から行ってきた事をコロナ禍だからできないという言い訳は作らず、今のこの環境でできる方法はないかと考えながら業務に従事していました。「新設された救急科（救急室）でのソーシャルワーク」、「外来分野でのソーシャルワーク」、「連携医療機関登録制度の創設」、「ZOOMを用いたオンライン研修やネットワーク会議」、「ZOOM ミーティングを用いた研修講師」等、コロナ禍でもMSWの取り組みの幅を広げることができました。個別のケースでも、仕組みづくりもそうですが仲間たちと話し合い、意見を出し合い、支え合いながら取り組むと前に進めるいう事を学びました。自己研鑽も同じです。今までのように県外に出張に行くことはできなくなりましたが、ここ1年で急速にWEBシステムを用いた研修会が普及しました。「未来語りのダイアログ」や「リフレクティング」等、今、注目されている新しい手法をWEB研修で学べる機会が得られました。相談面接援助、カンファレンス、スーパービジョン等に応用し、学んだ事を実践現場で活かせる楽しみを実感しています。

皆さんは、昨年度を振り返ると、どのような学びを得ました？そして、今年度はどのような目標をもって、どのような事を学び、どのようなソーシャルワークを展開したいと考えていますか？

「日々の業務さえこなしておけば良い。」…そう思った時点で、学びの機会、成長の機会、ネットワークを広げる機会を失ってしまうものです。私たちのソーシャルワークは、患者さんやご家族の生活や人生に深く影響を及ぼす実践です。そういった責任感と緊張感を常にもって取り組むべきものです。そのためには常に自分の実践を振り返り、また社会の変化に敏感であり、そして知識や技術をアップデートしていく事、そして同じ志を持ったMSWが支え合える環境が必要だと私は思っています。

徳島県医療ソーシャルワーカー協会では今年度も、理事の皆さんがいろいろな研修企画を用意して、学びとつながりの場を皆さんに提供して下さると思ひます。そのような機会に皆さんが是非、積極的に参加し、学んだ事を実践現場に持ち帰り、発揮して下さる事を期待しています。

定期総会報告

令和3年度の定期総会は、書面評決といたしました。

令和3年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、書面評決といたしました。令和2年度の事業報告及び会計・監査報告の承認、令和3年度の事業計画案・予算案、旅費規程および細則案の各議案が承認されました。今回は役員改選の年にあたり、下記の通り理事等が選出されました。またZOOMオンラインにて記念講演会が開催され、日本医療社会福祉協会 副会長でやわたメディカルセンターMSWの林 真紀 先生より「地域共生社会の実現に向け、医療ソーシャルワーカーの役割を探求する」のテーマで講演をして頂きました。

< 新役員一覧 >

		氏名（所属機関）	
理事	会長	郡 章人（徳島県鳴門病院）	高木 隆司（徳島赤十字病院）
	副会長	大森 和幸（東徳島医療センター）	織原 望（徳島平成病院）
	副会長	久保 哲（徳島健康生活協同組合）	高橋 里沙（徳島大学病院）
	副会長	有馬 信夫（徳島県立中央病院）	広岡 香（阿南医療センター）
	副会長	津川 靖弘（徳島病院）	黒島 早恵（ホウエツ病院）
	副会長	芝 浩伸（大久保病院）	菊山 敦史（協立病院）
	監事	富永 誠記（徳島大学病院）	船越 愛美（リハビリテーション大神子病院）
会計	菊山 敦史（協立病院）	事務局 大森 和幸（東徳島医療センター）	

「令和3年度 定期総会・記念講演へ参加して」

東洋病院 吉田めぐみ

令和3年度の定期総会・記念講演へ参加させていただきました。
 「地域共生社会の実現に向け、医療ソーシャルワーカーの役割を探求する」をテーマとして、日本医療ソーシャルワーカー協会副会長である、やわたメディカルセンターの林真紀氏によるオンラインでの講演でした。
 医療政策や健康概念から、地域共生社会について紐解いてくださり、臨床現場の実情に落とし込んで説明してくださいました。その中で、講演中何度も仰っていた「支援者も含めて、孤立しない」「人を育てあい、支援者が支えられるネットワーク」という言葉が心に響きました。私たちソーシャルワーカーも地域の一員である事に改めて気付く事ができました。地域共生社会実現への原動力になる言葉だと感じました。
 単なるソーシャルワーク機能としてではなく、ソーシャルワーカーとして、この地域で自分にできる事を、実践していきたいと思えます。
 今回、数年ぶりに県協会へ再入会させていただき、久しぶりの研修参加をさせていただきました。リモート研修であり直接会って色々お話できないもどかしさはありませんでしたが、画面上の参加者の方々の姿に、ひとり懐かしんでおりました。
 県協会は、この地域（徳島）で、ソーシャルワーカーとしての私の心の支えだと感じました。
 定期総会の記念講演ということもあり、今回このような大変貴重なご講演を企画していただいた協会役員の皆様に御礼申し上げます。

研修報告

「令和3年度 徳島県医療ソーシャルワーカー新人研修」
(R3.6.13) < “ZOOMアプリを利用したオンライン研修” >

「新人研修に参加して」

徳島県立海部病院 丸山 真由

今回参加させていただいた「徳島県医療ソーシャルワーカー協会 新人研修」では、医療ソーシャルワーカーとして身につける価値や、社会保障制度についての知識、記録の仕方と重要性、面接技術など、様々なことを学ばせていただきました。

「価値と倫理」の講義では、業務に対しジレンマが生じた場合、全ての人が安心・安全に納得する地点を考えることが大切だと知ることができました。普段の業務の中で、正義とは何か、ソーシャルワーカーにとっての価値とはどういうものなのかを自身でも考え、今後のスキルアップに繋がっていきたいと思います。

「社会保障制度（総論）とMSW」の講義では、社会保障制度を細かい部分まで勉強させていただきました。まだまだ知識が浅い部分もありますので、自身でさらに勉強して知識量を増やし、少しでも多くの制度等を業務の中で上手く使用しながらたくさんの方を支援できるようにしたいです。

「ソーシャルワーク記録について」の講義では、記録の仕方などを教えていただきました。記録をする際、必要な情報をまとめて上手く記入できたと思う時があれば、もっとわかりやすくできるのではないかと悩む時もあります。ソーシャルワーカーとして患者様やそのご家族の方々の大切な情報を預かり、使用させていただいているということを常に念頭に置いて講義でお聴きしたことや周りの方からいただいたアドバイスなどを存分に活かし、連携がスムーズに進むよう精一杯頑張ります。

「MSWの相談面接援助と技術」の講義は面接技術をコミュニケーション能力など、いろいろな方面から見たソーシャルワーカーのスキルについて教えていただきました。どうすれば患者様やご家族の方に信頼していただけるかをよく考えることができた上、自己のソーシャルワーカーとしての不十分な部分を多く実感し、深く反省することができました。

今回のご講義を通して、医療ソーシャルワーカーとしてやるべきことを改めて考え直し、自分が患者様やご家族のためにどういった支援をするべきなのかをたくさん学ぶことができました。まだまだ勉強不足でわからないことも多く知識も技術も足りないことばかりですが、今回の講義で教えていただいたことを自分の力にし、一つ一つ徹底しながら自信をつけていきたいです。ありがとうございました。

「フレッシュ医療ソーシャルワーカーWEB研修に参加して」

海南病院 地域連携室 宍戸美香

研修に参加させていただきありがとうございました。講義、質疑応答、意見交換とそれぞれ大変貴重な経験となりました。質疑応答では丁寧に返答してくださり感謝しています。

「価値と倫理」では、知識やスキルの土台となるのは、ソーシャルワークの倫理的価値であることを再認識しました。何を優先するのか、最善を目指すためにはどうしたらいいのか、しっかりと考えていきたいと思います。「社会保障制度」では、患者さんやご家族がどのような制度やサービス、施設を必要としているのかを常に意識し、アンテナを張って日々情報収集することが大切だと学びました。情報交換や相談することも大切だと感じました。「SW記録」では、記録は患者さんの生活・人生の証であること、電子カルテの記録は、SWの専門性を理解してもらう有効なツールとなることを学びました。研修後は、ストレングスに視点をおいた記載方法を意識して取り入れています。「相談面接援助」では、閉じられた質問を開かれた質問にするという演習で苦戦しましたが、大変勉強になりました。YESをもらう応答のスキルや、リフレーミングをしてIメッセージでフィードバックするなど、実践で取り入れて力にしたいと思いました。

最後に、4月に立ち上げたばかりの地域連携室に配属となった私は、日々慌ただしく過ごす中で、業務を覚えるのに精一杯で余裕がありませんでした。MSWが病院に1人ということで、不安とプレッシャーが重なっていましたが、今回、web研修を通して、先輩方の存在を感じ、とても心強く感じました。それと同時に、経験を積み重ねてもなお学び続ける姿勢を持ち続けることが、素晴らしいと感じました。私も、学び続けられる人になりたいと思います。そして院内スタッフ、在宅スタッフ、関係する方々と連携し、一つ一つのケースに丁寧に対応できる力をつけたいと思います。ありがとうございました。

協会のWA

「今、自分がしたいこと」

徳島赤十字病院
奥村 奈央

☆…………☆…………☆…………☆

今回は「今、自分がしたいこと」をテーマにいただきました。

私が今したいことは……「旅行」です。観光名所巡りをはじめ、カフェやスイーツ巡り、温泉など、いろいろな楽しみ方ができ、毎年友人と旅行していました。

最後に旅行したのは京都と伊勢でした。京都では青蓮院門跡にて綺麗な庭園や襖絵を鑑賞したり、カフェで抹茶パフェを食べたりして楽しむことができました。

また伊勢では、伊勢神宮へ初めて参拝することができました。おかげ横丁では、道いっばいに観光客で賑わっており、人の多さに圧倒されながら歩いたことを覚えています。

1日も早く状況が落ち着き、旅行などができる生活にもどれることを願っております。

次回のテーマは「おすすめの旅行地」について書いていただければと思います。

よろしく願いいたします。

☆…………☆…………☆…………☆

インフォメーション

「令和3年度 第1回 医療福祉研究会」

開催日時：令和3年8月28日(土)
9:30 ~ 11:30

テーマ：特定医療(指定難病)について
【形式】ZOOM オンライン研修

……………

「2021 ソーシャルワーカーデイ in 徳島」
～ コロナ禍でのソーシャルワーク実践 ～

開催日時：令和3年9月19日(日)
9:30 ~ 12:00

内容：
第1部 リレートーク
「コロナ禍でのソーシャルワーク実践」
第2部 グループディスカッション
【形式】ZOOM ミーティング(WEB 開催)

……………

「第13回 徳島県医療ソーシャルワーク学会」

開催日時：令和3年12月5日(日)
13:30 ~ 16:30

テーマ：ソーシャルワーカーの家族システム
の見方とその変化
～ コロナ禍で私たちができること ～

内容：
・講演「家族システムの見方と変化」
・演題発表

【形式】ZOOM オンライン研修

会費納入のお願い

～ 振込先(郵便振替口座)～

記号番号：01660-8-43058

口座名称：徳島県医療ソーシャルワーカー協会

会費の納入に関しては、「振込取扱票」にて
郵便局よりお振込みくださるようお願いいたします。

<協会事務局>

東徳島医療センター 地域連携室内
〒779-0193

徳島県板野郡板野町大寺字大向1-1
TEL:088-672-6306 FAX:088-672-4266

e-mail：
renkei@higashitokushima.hosp.co.jp



徳島県 医療ソーシャルワーカー 協会ニュース

挨拶

徳島県医療ソーシャルワーカー協会
理事 織原 望

「振り返ってみました」

過ごしやすい季節になりましたね。マスクが必要な生活になってから、もうすぐ2年が経とうとしています。3年前には想像もしなかった未来、去年の今頃は「来年の秋には終息しているだろう」と思っていた現在。その時その時の未来だった今を、私たちは歩んでいます。マスクだワクチンだと言われる世の中になってある人が咳きました。「日本人はどこまで右向け右なんだろう」。きっと今の生活様式になるまではさほど目立たなかったのに、現在では皆と違う行動を取ることが個性的とは言えなくなっているように感じます。十人十色というように、いろんな価値観が存在する世の中です。現代の流れに反する事を言うと批判されるかもしれませんが、個人の考えを声に出せる事は大事なと感じた一言でした。

そんなことを思いながら、ふと思い立ってソーシャルワーカーで働きだした頃の自分を振り返ってみました。

綺麗な言い回しをしようとするあまり患者さんへ伝えたい事がなかなか伝わらない事に焦りました。家族さんから厳しい言葉を頂いた事もあります。知識も浅く、わからない事も上手く質問できず、環境や業務に慣れるのに必死で、連携室の仕事は向いているのか？と悩んだ日々もありました。ターニングポイントとなったのは、地域包括支援センターへの出向でした。ベッドコントロールに追われる日々から在宅生活の支援に視点が変わりました。それまでは、病院内での援助しかできていませんでしたが、在宅生活への関わり方・地域資源の把握、他事業所との連携など、私にとって学びの多い3年間でした。そこで得た知識、出会った人々は今も私の原動力です。

とある歌詞に「昨日に夢を託せば後悔、明日に夢を託せば希望」「僕が立っているここはきっと誰かの願ってる場所で、誰かが立っている場所がきっと僕の望む場所」というフレーズがあります。落ち込んだり悩んだりした時でも「日々は巡る、こんな自分でも誰かの目標になっている」と思うと、自然と前を向けました。

今年に入り「袖振り合うも多生の縁ですね」と、ある患者さんに言われました。私のモットーである「一期一会」。プライベートでも仕事面でもいろんな人、物事との出会いがあり、ご縁の不思議さを感じながら、その瞬間その出会いを大切にしています。行き止まることもあります。その時々自分や出来事と向き合い、自分らしい自分でありたいものです。

取り留めのない文章となりましたが、挨拶とさせていただきます。

研修報告

令和3年度 第1回 医療福祉研究会

テーマ：「特定医療（指定難病）について」

（R3.8.28） < “ZOOMアプリを利用したオンライン研修” >

「令和3年度 第1回 医療福祉研究会に参加して」

徳島健生病院 今川 享子

久々に研修会に参加させていただきました。今回は指定難病についてのテーマで、丁寧な説明と資料でとても勉強になりました。ありがとうございました。

徳島健生病院でも指定難病をお持ちの方の受診や、時々新規申請の患者様もおられます。今回の研修で学ばせてもらい、難病の方と関わる時、申請手続きや医療費の話がメインになっていたなと反省しました。講義の中で、「その患者さんに応じた説明を、その患者さんに適した話し方で、その患者さんが望むであろう対応を推測して、その患者さんの自立を支援する」「MSWとして、患者さんの心に寄り添い、必要な手続きや準備を伝え、今後の生活や暮らしの中での心構えについてもスポットを当て課題検討・抽出しアプローチする事が求められる」とお話があり、指定難病に関わらず 日常の支援で自分自身のこころにとめておきたいと思いました。

指定難病は沢山ありそれらをすべて暗記する事は難しいですが、自分の病院に関連する難病は把握し知識として持っておきたいなと思いました。また、医事課と連携する事で支援が深まる事を教えていただきました。

今回の研修で学んだ事を今後の業務に生かしていきたいです。ありがとうございました。

令和3年度 第1回 定期研修会

テーマ：「対人援助職に求められる [アンガーマネジメント] の基礎知識

講師：独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 療養指導室 室長 佐々木 祐二 先生

（R3.9.23） < “ZOOMアプリを利用したオンライン研修” >

「対人援助職に求められるアンガーマネジメントの基礎知識」を受講して

リハビリテーション大神子病院 船越 愛美

「アンガーマネジメント」と聞くと「怒らないこと」と思っていたのですが、研修開始早々に佐々木先生から「怒る必要のあることは上手に怒れ、怒る必要のないことは怒らないようになること」と言われ、衝撃を受けました。日常生活の喜怒哀楽の中で怒りの感情が一番エネルギーを使うように感じます。自分が信じている「べき」を裏切られた時に怒りが生まれ、理想と現実のギャップが大きいほど怒りが大きくなるのであれば自分の「べき」を必要な物か必要でない物か自分の中で整理する必要があると感じました。「べき」を裏切られると怒りのまま気持ちを伝えてしまうことがあります。Iメッセージを用い、感情のまま伝えることがないようクライアントや連携相手と上手く関係性を築いていきたいと思います。怒ることは相手に変化を求めているからであるが、自分も怒る必要のないことは怒らないで済むよう変化して行きたいと思います。

ソーシャルワーカーデイ

2021 ソーシャルワーカーデイ in 徳島 (R3.9.19)
「コロナ禍でのソーシャルワーク実践」
＜ “ZOOM ミーティング (WEB 開催) にて” ＞

【2021 年度ソーシャルワーカーデイ 感想】

徳島大学病院 MSW 高橋 里沙

9月19日(日) ZOOM を活用し、徳島県社会福祉士会、徳島県精神保健福祉士協会、徳島県医療ソーシャルワーカー協会合同にて2021年度ソーシャルワーカーデイを開催致しました。今年度のテーマは「コロナ禍でのソーシャルワーク実践」という内容で、それぞれの協会から1名ずつ発表者を選出し、コロナ禍での実践について発表を行いました。

私は、当協会の発表者として参加させていただきました。医療機関で勤務しているため、とくに入院患者さんに焦点をあてコロナ禍で退院支援をする際の問題点や工夫した点について発表致しました。おそらく、他の医療機関のMSWの皆様も共感できる内容があったのではないかと思います。

また、他協会の発表についてはとても興味深いお話を聞くことができ、大変勉強になりました。徳島県社会福祉士会は、那賀町地域包括支援センター湯浅さんが発表し、コロナ禍での実践について会員へアンケートをおこなっており、コロナ禍での在宅サービス利用の難しさなど教えていただきました。在宅サービスについて過度な制限がかかってしまい、本当に必要な制限なのか考えていく必要があると教えていただきました。徳島県精神保健福祉士協会は、南海病院の法華さんが発表し、職場でのコロナクラスターを経験し、現場での実践や苦悩について教えていただきました。とても大変な状況下で、ソーシャルワーカーができることを模索し実践されている姿にとっても刺激を受けました。

グループディスカッションの時間には、コロナ禍でのソーシャルワーク実践について他協会の方とざっくばらんにディスカッションすることができました。コロナ禍で失業した患者さんの生活困窮に関する問題やコロナ患者やコロナ患者と接する者への差別問題など、まだまだ多くの課題があることが分かりました。

今回、発表の機会をいただいたことで、私自身、自分の実践を振り返ることができ、とても貴重な経験となりました。それに他協会の方とこのように交流できる場はソーシャルワーカーデイの醍醐味だと思います。ZOOM を活用した初めてのソーシャルワーカーデイとなりましたが、とても実りのある研修となり、これからのソーシャルワーク実践の糧になると思います。貴重な機会を頂きありがとうございました。

研修報告

＜ 香川県医療ソーシャルワーカー協会 研修会 ＞ (R3.8.21)

「研修会に参加して」
協立病院 菊山 敦史

「意思決定を支援する」～人生の最終段階・認知症・無縁社会
(“Zoom アプリを使用したオンラインミーティング”)

香川県協会主催の研修会に参加させて頂きました。コロナ禍で何かと活動しづらい日々ですが、オンライン研修が多くなったことで、県外の研修を受ける機会が増えたことは良かったかなと思います。今回は、表記のテーマについて、国立病院機構まつもと医療センターの植竹日奈先生のご講演を拝聴させて頂きました。

講義の前半では、喉頭がんの歌手の治療に対しての事例の紹介がありました。治療を優先する医療者、治療とともに歌を唄い続けることを優先したい患者、それぞれの医療に対する価値感の違いが生じる、と。医療行為は患者の人生を変えるもの、患者の人生にとって医療行為がどのような意味や価値を持つのか？ そういう場面で生じる“価値観のゆるぎ”に関わっていくのがソーシャルワーカーであり、医療者と患者と一緒に考えることが大切、そこに協働意思決定支援の必要性があると言われておられました。

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」をベースにした講義でしたが、非常に内容の濃い講演でした。植竹先生の勤務先である“まつもと医療センター”でも、最初から医師とワーカーが協働できていた訳ではなく、医師へSWの実践・姿勢を見てもらい続けて、日々の積み重ねによって信頼を勝ち取っていったと言われており、厳しい状況、色んな場面に対応できるよう常に勉強しておくことが大事であるという言葉は、大変印象に残りました。

協会のWA

「あなたは誰とどこへ行き、何をしたいですか？」

ホウエツ病院 黒島 早恵

コロナ禍の今、いろんな“したい”気持ちを抑えつつ生活をされている方が多いんじゃないかなと思います。私も「コロナが落ち着いたら…」と何度も繰り返しながら過ごしているうちに、不思議とこれが当たり前になってきました。

前回の奥村さんからパスを受けた「オススメの旅行地は？」ということでしたが、好みもあるのでオススメできるかどうかはわかりませんが、お寺や神社巡りはいかがでしょう。私は子どもたちとゆっくり緑の木々の中で自然を感じることにハマっています。有名な場所ではなく、何気ない近くにある裏山のようなところほど味があります。先日、秋祭りの準備中の神社へぶらりと行ったところ、山の斜面で自然の鹿に出会いました。驚きと感激です！

あなたは誰とどこへ行き、何をしたいですか？コロナという大きな不安に襲われ、当たり前の生活を誰とどう過ごしたいか、何をしたいかを一度は考えられたのではないのでしょうか？みなさん、大切にされている今を大切な人と一緒に計画してみてくださいね。

次は「アフタコロナにしたいこと」をお願いします。

インフォメーション

【第13回 徳島県医療ソーシャルワーク学会】

開催日時：令和3年12月5日(日)
13:30 ~ 16:30

テーマ：ソーシャルワーカーの家族システム
の見方とその変化

～ コロナ禍で私たちができること～

内容：

・講演「家族システムの見方と変化」

講師：京都第一赤十字病院

松井 久典 氏

・演題発表

【形式】ZOOM オンライン研修

.....

【令和3年度 第2回 定期研修会】

開催日時：令和4年2月27日(日)
9:30 ~ 11:30

テーマ：在宅医療について(仮)

※ 詳細については、決定次第、お知らせ
します。

.....

上記の協会主催の研修以外にも、研修会
やセミナー等の開催案内をホームページに
掲載していますので、ぜひご覧下さい。

会費納入のお願い

～振込先(郵便振替口座)～

記号番号:01660-8-43058

口座名称:徳島県医療ソーシャルワーカー協会

会費の納入に関しては、「振込取扱票」にて
郵便局よりお振込みくださるようお願いいたします。

<協会事務局>
 東徳島医療センター 地域連携室内
 〒779-0193
 徳島県板野郡板野町大寺字大向1-1
 TEL:088-672-6306 FAX:088-672-4266
 e-mail:
 renkei@higashitokushima.hosp.co.jp



徳島県 医療ソーシャルワーカー 協会ニュース

挨拶

徳島県医療ソーシャルワーカー協会
理事 菊山 敦史

「ご挨拶」

会員の皆様には、日ごろより協会の運営にご協力とご理解を頂き感謝申し上げます。2002年に発足した当協会も今年で20周年を迎えます。当初20名に満たなかった会員数が現在は100名を超えるようになりました。設立準備から関わらせて頂いた者としては、たいへん嬉しく思っております。

私は工学部出身で卒業後は自動車部品メーカーに就職し設計や開発の仕事をしていました。2002年に今の職場に転職しましたが、医療・福祉の知識は無く、恥ずかしながらMSWという職種もよく知りませんでした。就職当初は「営業に行ってこい」と言われました。病院に“営業”という仕事があるのか？ととまどいましたが、要は外部との連携を取っていくことだと解釈して仕事を続けました。おかげで多くの方と知り合うことができ、分からない事もたくさん教えて頂きました。ここまで何とか仕事を続けてこられたのも協会の皆様のおかげと感謝しております。皆様との関係が無ければ、もしかしたら、どこかで燃え尽きていたかも知れません。

こんな私にとっては、研修会や理事会での講師や参加者の話は、とても興味深く、新たな気づきを与えてくれる場であります。私以外の理事の方々は経験豊富で頼もしい方ばかりなので、特に若手の方は、時間の許す限り多くの研修会等に参加いただき、いろんな事を吸収して頂きたいと思っております。研修会での先輩同士の会話を聞いているだけでも勉強になりますよ。

皆様もそれぞれの所属機関で、制約も多い中で業務を行っておられると思います。何かとストレスも溜まりますし、思い描くソーシャルワーク業務が出来ないこともあるかと思えます。私も以前は、人事と医事、さらには関連施設の管理業務などを兼務したり、部署異動も重なったりと、やり切れなさを強く感じていた時期がありました。ある先輩の方に不安な気持ちを話した所、「悩みを抱えられている中でも、ここまでやって来られたんですね。」という言葉を下さいました。中途半端かも知れないが、それでも今までどうにか頑張ってきたから今の自分がいる。と現状を認めることができ、心のつかえが取れた気がしました。これからも同じような不安にかられた時は、「なんやかんや言うても、ここまで何とか頑張ってきたんや。」と自分を励まして行こうと思っております。

私は、協会では広報と会計を担当しております。皆様に連絡する時は、たいへい感想文の依頼か会費納入依頼のお願いですが、なにとぞ“煙たがらずに”ご協力いただければ有難いです。これからもよろしくお願いたします。

研修報告

令和3年度 第2回（第48回）医療福祉研究会

テーマ：「障害年金って何？」

（R3.10.24） <“ZOOMアプリを利用したオンライン研修”>

「令和3年度 第2回 医療福祉研究会に参加して」

徳島赤十字病院 井内 美沙

今回参加させて頂いた医療福祉研究会では、「障害年金って何？」をテーマとして徳島大学病院の高橋MSWより発表頂きました。

MSWとしてももうすぐ8年になりますが、恥ずかしながら障害年金の相談対応のときはとても緊張します。障害年金は複雑で難しいという先入観があり今回オンライン研修があるとき参加させて頂きました。

今回の参加メンバーは急性期～慢性期の病院まで幅広く、経験年数もそれぞれで、皆様の話を聞いてみると私だけではなくたくさんのMSWが障害年金に苦手意識があるのだなと感じました。高橋MSWの発表スライドでは基礎～事例を交えた応用の相談内容までポイントをしっかりと押さえてわかりやすくまとめて下さっていました。

グループワークの時間もあり、少人数でそれぞれの悩み・質問・各病院の対応方法など、参考となる意見をたくさん交わすことができました。

今回の研修会を通して「障害年金は苦手」という意識からもっと経験を積んでしっかり対応できるようになりたいと自信をつけることができました。

コロナ禍のため、以前のように皆様と直接お会いして研究会に参加する機会は減ってしまいましたが、家に居ながら研修を受けられるオンラインならではの利点を活かした素晴らしい会でした。貴重な機会を頂きありがとうございます。

令和3年度 第3回（第49回）医療福祉研究会

テーマ：「地域によってこんなに違う！？ 制度申請や手続きの実際」

（R4.3.20） <“ZOOMアプリを利用したオンライン研修”>

「令和3年度 第3回 医療福祉研究会に参加して」

協立病院 菊山 敦史

今回の研究会では、各種制度の申請や手続きの市町村間での違いについて意見交換が行われました。最初は、介護保険申請についてでしたが、それぞれの市町村によって対応に差があるようでした。私の病院では徳島市へ依頼することが多いのですが、申請時点での病状の安定度合いを確認されます。急ぎの要請には、応じて頂けませんが、窓口担当者によっての差を感じることもあります。その後、生活保護、成年後見人、世帯分離、身寄り無しの方の死亡時の対応について、市町村間での対応の違いについて意見が出されました。

意見交換の中では、相談の持っていき方でも差が出るという意見もありました。市町村の力量の違いもありますが、我々SW側の訴えかけ方が重要であると。

今回の研究会で印象的に感じたのは、制度申請についての市町村の対応うんぬんよりも、ソーシャルワーカーとして担当の患者のために手間と時間を割いているという自覚、患者のために必要だと思えば、どんどん申請していく意気込みや姿勢が大切であるという点でした。制度申請を行うということは、権利を行使することであるので、簡単に引き下がってはダメだと思い知らされました。

本研究会も49回目となりました。本研究会を企画、運営してきた担当理事の皆様の熱意には頭の下がる思いです。有意義な研究会を提供頂きありがとうございます。

ソーシャルワーク学会

「ソーシャルワーク学会に参加して」

阿南医療センター 羽坂 美保

第13回 徳島県医療ソーシャルワーク学会

【第1部】講演：「家族システムの見方と変化」

講師：京都第一赤十字病院 松井久典氏

【第2部】演題発表

(R3.12.5) <ZOOMアプリを利用したオンライン研修>

第13回徳島県医療ソーシャルワーク学会では、京都第一赤十字病院松井氏による講演と、4名の学会発表を聞く機会をいただきありがとうございました。松井氏の講演では多様化する家族システムへの考察や、実際の事例を通しての率直な思いを聞き、SWとして柔軟な視点を持つことの重要性、自分の思い込みを知る為の自己覚知、日々進む社会の多様性について理解を深めるための自己研鑽の必要性を再認識しました。また、ご紹介いただいたマインドフルネスについては、時折見返し実践するようにしています。

4名の学会発表のうち、宍戸さんの発表では「MSWが家族の力を信じその価値を大切にすること」という言葉があり、とても印象的でした。宍戸さんの家族を信じる力が素晴らしく、信じたからこそ出来た支援だと感じました。

広岡さんの発表では、自らの介入について振り返った内容が的確に言語化されており、学びを自分のものにされていると感じました。家族関係の再構築や、関係機関との連携についても、転院後の支援として委ねることなく広岡さんの立場でできる限りのことをしようとする姿勢に尊敬を覚えました。

芝さんの発表では面会支援についてお話を聞きました。面会の新たなツールやシステムの導入について病院に働きかけ、新型コロナウイルス感染症の感染対策対応の中にあっても面会の機会を確保するべく患者様のために努力されている姿に力をいただく発表でした。病院の面会システムから家族に関わるという視点が大変勉強になりました。

高木さんの発表ではがん患者様の抱える全人的苦痛に対する支援について分析されており、MSWの遂行できる考え方として「自立を支援する」「発信の役割を担う」「着実に穏やかな今を生きることを支援する」の3点があげられていました。長年の知識と技術と経験に基づいたお話であり、細やかな支援内容について学ぶことができました。

この度は、貴重なお話をありがとうございました。

四国ブロック大会

「大会に参加して」

徳島赤十字病院 高木 隆司

《令和3年度 四国ブロック医療ソーシャルワーク大会》

*第1部 「医療基本法説明」

講師：日本医療ソーシャルワーカー協会 漆畑真人氏

*第2部 「ヤングケアラーの現状とソーシャルワーカーの役割」

講師：大阪歯科大学 医療保健学部 口腔保健学科 濱島叔恵氏

標記研修に参加させて頂きました。Zoomオンラインでの参加でしたが、自身の業務を振り返ることもでき有意義な時間となりました。以下、報告させて頂きます。

第1部：漆畑真人先生の講演にて率直に大事と感じたのは、今以上に医療関連法や社会保障に目を向け（新しい情報を）キャッチするという事です。生存権や基本的人権の尊重といった高校の現代社会や公民の授業で習った社会法制基盤を見返して知識の更新をすることもしばらくご無沙汰だったなあと反省しました。中でも印象的であったのは、患者やその家族のwell-beingについて「生活の安定」と「自己実現」に対し寄り添い向かい合い、その価値観と考え方に働き掛けること、ということでした。今後も患者家族の自己決定をはじめとする様々なタイミングで相談支援することになる為、医療基本法を学習した上で多様化そして複雑化する「生活」や「いのち」に向き合う姿勢が求められると思いました。

第2部：濱島叔恵先生の講演では、ヤングケアラーの実情について聴き考えるきっかけになりました。一概にヤングケアラーといっても、概念の幅が広く、家の家事だけではなく家族の世話（身体介護・精神心理）等、様々な場面があることが理解できました。ケアを必要とする大人への正しい認識の周知と共に、ヤングケアラー当事者から救いや支援介入を要請発信できる体制や環境づくりが必要と感じました。また、どうしてもヤングケアラーの側から物事を捉えてしまいがちですが、介護やサポートを必要とする側の立や気持ちにも着目し、両者が相互的に支え合える社会が有益とも感じました。

協会のWA

「アフタコロナにしたいこと」

徳島県立三好病院 宇坂 能利

コロナが流行する前から、私自身いろいろな行事ごとが重なり、遊びに行くことができていませんでした。コロナが流行してからは、余計に出かけづらくなり、こんな生活が当たり前になりつつあるように感じています。

前回の黒島さんからパスを受けた「アフタコロナにしたいこと」ですが・・・

私がしたいことは、旅行です！

学生の頃から県外に月1回は遊びに行ったり、友達と旅行をする機会も多くありました。

これからたくさん行きたい場所がありますが、最近はSNSで温泉をよく調べています。

今年の冬には、山形県にある銀山温泉というところがとても雰囲気や景色がいいところだったので行ってみたいと思っています。

なかなかコロナも終息しませんが、皆さんもアフタコロナにしたいことを家族や友達と計画してみるのはいかがでしょうか？

おすすめの観光スポットがあればぜひ教えてください！

次は「私しか知らない徳島のディープスポットは？」 よろしくお願いします。

インフォメーション

「令和4年度
徳島県医療ソーシャルワーカー協会
定期総会・記念講演会」

開催日時：令和4年5月29日(日)
10:00 ~ 11:30

【記念講演】
講演内容：災害時のソーシャルワーク
実践を考える(仮)

講師：医療法人 芳越会 ホウエツ病院
理事長 林 秀樹 先生

【形式】ZOOM オンライン研修

会費納入のお願い

～振込先(郵便振替口座)～

記号番号：01660-8-43058

口座名称：徳島県医療ソーシャルワーカー協会

会費の納入に関しては、「振込取扱票」にて
郵便局よりお振込みくださるようお願いいたします。

＜協会事務局＞

東徳島医療センター 地域連携室内

〒779-0193

徳島県板野郡板野町大寺字大向1-1

TEL:088-672-6306 FAX:088-672-4266

e-mail:

renkei@higashitokushima.hosp.co.jp